

令和 3 年度事業報告

社会福祉法人 孝楽会

1. 孝楽会

本年6月に平成28年の社会福祉法人制度改革以降初めて、理事・監事・評議員が揃って任期満了を迎え、またけやき荘30周年にむけて若返りを図るべく施設長が交代し、法人・施設共に新体制となりました。

しかし、新年度がスタートして間もなく、平成11年の法人設立以来、先頭に立って進むべき道標を照らし、安定した法人経営ができるように、安心な施設づくりができるようにと尽力してくださった初代理事長である梅沢健治会長が急逝されました。私たちは常にその背中を頼り、追いかけて歩んできましたが、大きな柱を失った今、20年という時間をかけて築いてきた信用を裏切ることなく、法人と職員の未来に対して責任を負う理事会の役割はより重要になりました。

今年度は3年ごとに実施される介護報酬の改定が行われ、想定通り、社会構造の変化や労働人口減少等を見据えたものとなりました。さらに加算の算定に、ICTやロボットの活用や配置人数だけでなく医療的処置の資格保有者の配置等が追加されるなどサービス提供の充実が求められるようになりました。今後、ますます加速するICT・ロボット活用に関わる施設内の通信環境整備は、令和4年度に実施予定の「ICT導入を伴う大規模修繕(補助金利用)」を利用し、次世代につながるよう整備を行ってまいります。

今年度は初めて1号特定技能外国人(インドネシア)2名の採用を行いました。令和4年度4月入職の予定でしたが、コロナ禍で入国制限に伴うビザ発給の遅れに加え、初申請法人の審査、審査手順の変更が重なり、予定通りの入国となりませんでした(令和4年5月末入国、6月施設での業務開始)。周辺施設を含め複数の外国人労働者を採用している法人もありますが、果たして孝楽会が継続して行っていくかについては検討が必要と考えます。

新規事業については事業用地等の紹介があり、検討を行いました。用地の購入は投資金額や用途、地域等が合わず、建て貸しは建築コスト高騰のために家賃が高く、開設準備にはいたりませんでした。以前より検討していた「西菅田団地自治会の高齢者移動支援」の本格運行をめざし、行政や自治会と事前準備を重ね、令和4年度4月からスタートすることになりました。法人からは車両(セレナ、県遊技場組合より購入費の約2/3補助あり)を貸し出し、自治会のボランティア(ドライバー、添乗員)が運行を担当し、当面は毎週火曜日午前中に西菅田団地内を巡回します。定期的に運行状況や利用者数、要望等を確認し、神奈川区内で最も高い高齢化地域の生活支援となるよう協力してまいります。

今日までの法人の事業内容や取り組み等を照らし、横浜市(y-SDGs)や神奈川県(KANAGAWA SDGs PARTNER)のSDGs実施パートナーの公募に申請を行い、認定を受けることができました。社会福祉事業や派生する関連事業を通じて、SDGs活動を意識した法人運営を行ってまいります。

けやき農園はコロナ禍のため、年間を通しての農楽人活動はできませんでした。毎年農園を彩るコスモスを近隣の方々にも楽しんでいただこうと、職員手作りの通路を設置し、フォトコンテストを開催しました。初めての試みでしたが、大変多くの方々にご参加いただけ、好評を博しました。

(1) 各組織の会議内容

◇理事会

令和3年	5月	28日	令和2年度事業報告及び決算報告 令和2年度監査報告 役員・評議員改選に伴う候補者の提案 評議員選任・解任委員会外部委員の選任 定時評議員会開催日の決定 故・梅沢健治会長弔慰金支給の件
	6月	11日	新役員選任及び理事長互選 理事・監事の報酬について 故・梅沢健治会長弔慰金支給の件
	9月	17日	本館ボイラー交換の件
	12月	3日	決議事項なし、報告事項のみ。
令和4年	3月	28日	令和4年度事業計画案及び予算案 規程の改定（就業規則・給与規程） 女性活躍推進法に関する法人の取り組みについて

◇評議員選任解任委員会

令和3年	6月	2日	新評議員の選任
------	----	----	---------

◇評議員会

令和3年	6月	11日	令和2年度事業報告及び決算報告 令和2年度監査報告 役員改選に伴う新役員の選任 新役員及び評議員の報酬等について
------	----	-----	---

(2) 令和3年度 事業所別 実績報告

事業所名	利用定員	利用者数・件数	利用率(%)
特別養護老人ホームけやき荘	200名	192.1(195.8)名 (月末時点入所者数の計÷12)	91.8(94.3)%
ショートステイセンターけやき荘	20名	5,095(5,048)名	69.7(69.1)%
デイサービスセンターけやき荘	18名	2,469(1,920)名	54.0(41.1)%
居宅介護支援センターけやき荘	—	32(303)件	7.6(72.1)%

※1 ()内は令和2年度実績。

※2 特養の利用率は在籍者のうち、入院・外泊日数及び退所日を除いた実利用(滞在)率

※3 利用者数は年間利用者延べ人数(特養のぞく)

※4 居宅の利用率は年間の居宅支援件数を標準件数(420件＝月35件×12月)で除したもの。

(3) 職員異動・配置

◇職員異動状況（令和4年3月31日現在、カッコ内は前年同期）

正職員 71名（63名）

契約職員 6名（9名）

非常勤職員 25名（27名）

合計 102名（99名）

◇令和3年度採用・退職状況（カッコ内は前年度）

〔採用〕 正職員 13名（4名） 契約職員 0名（1名） 非常勤職員 4名（2名）

〔退職〕 正職員 7名（7名） 契約職員 1名（1名） 非常勤職員 11名（11名）

※退職理由：他事業所への転職、療養、定年等

2. けやき荘

(1) 特別養護老人ホーム

I 事業報告

令和3年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた年でした。

ワクチンの集団接種が開始され、けやき荘では95%以上のご利用者と職員が接種を行いました。職員は入館時に手洗い消毒とマスクの取り換えを実施、『外から持ち込まない意識』を一人一人が強く持って勤務してきました。それでも、新型コロナウイルス感染症の猛威は止まらず、2月に施設内でご利用者11名、職員2名のクラスターが発生しました。横浜市内の感染者数が急速に増えており、近隣の施設や病院でも発生が相次いでいる時でした。クラスターが発生した本館3階の職員・ご利用者は、他フロアと隔離をした期間が2か月ほど続きました。新型コロナウイルスが流行してから、ガウンテクニックやクラスター発生時の対応方法について、委員会や施設内研修などで訓練や話し合いを重ねてきましたが、実際に対応してみると、新しい課題に直面することが多く、毎日感染対応フロアと相談し、保健所と連絡を取り合って判断をしていきました。職員の感染者が増えなかったことと、隔離期間中予定していた新規入所者やショートステイの受け入れを他フロアで行ったことで、運営を最小限の縮小で押さえられたと思っています。職員にとっても緊張の連続であったと思います。冷静に行動し、職員間での感染拡大もなく業務にあたってくれたことに感謝します。今回の経験から、感染対策委員会でマニュアルの改善を検討しています。また、感染対策を行うための環境整備のため、補助金を利用した設備の導入などを考えています。

長引く感染対応の影響によるご利用者の生活の質の低下を懸念し、令和3年度は中止してきたイベントを新しい形で行いました。10月の『けやきフェスティバル』は、『焼き芋フェスティバル』と名前を変え、けやき農園で獲れたサツマイモを施設職員が焼き芋にし、外に飲食スペースを設置することで感染予防に配慮した形で行いました。12月の『餅つき大会』は広いスペースで本館・別館でそれぞれ行い、事故なく楽しんでいただきました。フラワーアレンジメントや選択喫茶は各フロアで開催するなどして楽しんでいただけました。今後も新しい形でイベントや行事の開催行っていきたいと思います。ボランティアの受け入れについては、地域での活動の再開がまだ少ないため、今後もボランティアの方と相談しながらお手伝いいただこうと思っています。

目標の稼働率向上ですが、令和3年度は昨年と比較すると退所者が1.5倍の67名(昨年度46名)、新規入所者が1.6倍の67名(同年42名)でした。特に下半期の退所者数は例年の2倍となり、入退所委員会を隔週から毎週に変更しても、退所のスピードに追い付けない程でした。退所者の半数以上(37名)は施設内での看取りケアでした。入所申し込み者は、医療対応や看取りケアのニーズが高くなっており、入所後数か月での退所というケースが増えています。空床や入院ベッドを活用し、入所+ショートステイで100%を目指すことが重要だと考えています。

現在、外部研修ではオンラインやZOOM研修が増えてきております。施設内研修でも、オンライン研修を7月から導入し、専門性の向上を図りました。今後も継続していきま

す。中止になってしまった「認知症実践者リーダー研修」や「喀痰吸引研修」「LIFE 科学的介護」など加算に係る資格の取得や研修は早急に行えるよう手配していきます。

介護職員については、経験豊富な中途職員の採用、介護福祉士などの資格を持った人材のカ伊斯ケ（介護職員と施設のマッチングアプリ）を利用した緊急時の職員補充、多様な経歴を持つ人材の採用などを行い確保してきました。その結果、派遣職員の人数を3名減らし正社員を1名増やすことができています。看護職員は、昨年と人員配置は変わっていませんが、感染対応等の影響か、緊急時以外の残業が増加しているため、外部講師を入れ業務の改善に取り組んでまいります。

Ⅱ 主要動向

◎けやき荘行事

令和3年	4月	1日(水)	令和3年度入職式
	5月	1日(金)	開所記念日
	8月	14日(土)	本館夏祭り開催
		21日(土)	別館夏祭り開催
	9月	11日(土)	和菓子喫茶
		12日(日)	敬老式典を開催 施設職員くじ引き大会実施
	10月	24日(日)	焼き芋フェスティバル(本館)
		26～29日	特養コスモス見学
		31日(日)	焼き芋フェスティバル(別館)
	11月	7日(日)	運動会
	12月	4日(土)	防災訓練
		18日(土)	餅つき大会
令和4年	1月	1～3日	新年行事
		4日(火)	新年仕事はじめ式
	2月	2日(水)	節分イベント

◎介護課及び看護課入退職状況

(単位:人)

課	入/退	正・契約・非	派遣
介護課	入職	8 (5)	21 (32)
	退職	7 (12)	24 (29)
看護課	入職	1 (0)	13 (12)
	退職	1 (1)	13 (12)

※ () 内は前年度

Ⅲ 実績等

1) 特別養護老人ホーム入退所等実績

① 令和3年度入退所実績

コロナウイルス感染拡大の為に入所の制限や受け入れ態勢の変化により通常よりも入所案内に時間を要してしまいました。退所件数が昨年度より約1.5倍となっ

ている為新規入所の数も増加傾向であるにもかかわらず追い付かず、稼働率の向上に繋がらない結果となってしまいました。

	延人数 (人)	月末時点入所者 (人)	稼働率＝在所 (%)	新規入所者 (人)	退所者 (人)
4 月	5,497 (5,510)	193 (195)	92 (92)	8 (2)	6 (3)
5 月	5,722 (5,680)	194 (195)	91 (92)	6 (6)	5 (7)
6 月	5,594 (5,493)	195 (198)	93 (92)	4 (4)	3 (0)
7 月	5,811 (5,850)	195 (195)	94 (94)	4 (4)	4 (7)
8 月	5,672 (5,941)	191 (194)	92 (96)	3 (5)	7 (4)
9 月	5,471 (5,758)	190 (197)	91 (96)	2 (4)	3 (1)
10 月	5,584 (5,962)	187 (196)	90 (96)	3 (4)	6 (5)
11 月	5,353 (5,774)	192 (198)	90 (96)	10 (4)	5 (2)
12 月	5,722 (6,106)	193 (199)	93 (98)	8 (3)	8 (2)
1 月	5,778 (5,934)	193 (195)	93 (96)	7 (0)	6 (4)
2 月	5,167 (5,249)	191 (197)	93 (94)	3 (5)	5 (3)
3 月	5,563 (5,623)	191 (191)	90 (91)	9 (2)	9 (8)
合計	66,934 (68,880)	2,305 (2,350)	92 (94)	67 (42)	67 (46)

() 内は前年度実績

② 令和 3 年度新規面接者数

事前面談の件数は新規入所者の増加に伴い昨年度より 19 件増加しています。

他施設への入所や医療面での対応困難により、入所できないケースがありました。施設サービスを向上し医療対応の受け入れの幅を広くしていく必要があると考えます。

	面談件数 (件)	入所不可件数 (件)
4 月	10 (5)	1 (0)
5 月	7 (2)	0 (0)
6 月	5 (4)	0 (0)
7 月	5 (4)	1 (0)
8 月	6 (7)	1 (2)
9 月	3 (6)	0 (1)
10 月	9 (3)	2 (1)
11 月	11 (3)	0 (0)
12 月	1 (9)	1 (1)
1 月	7 (3)	3 (0)
2 月	6 (3)	1 (0)
3 月	7 (7)	0 (0)
合計	77 (56)	10 (5)

() 内は前年度実績

2) 防災拠点としての機能・対応力強化

令和3年度は新型コロナウイルスの感染防止により、菅田南町自治会との合同防災・総合消防訓練を行えなかったため、職員のみで防災訓練を行いました。認知専門棟であるC棟での訓練でしたが、トラブルもなく無事に終了しました。

緊急連絡メール（ピタゴラ連絡網）を活用し、1週間に1度PCR検査の結果を職員に通知して、災害時における職員の安否確認の訓練も行いました。

二次福祉避難所としての対応を考え、必要な備品の整備や、災害マニュアルの見直しも行いました。けやき荘から自宅までの距離を把握し、特に徒歩圏内の職員には大規模災害時に速やかにかけつけてもらうなどして、ご利用者の安全確保、生活の維持等ができるようにと考えています。

令和3年10月7日の震度4の地震の際には、夜勤帯の職員がマニュアルを見て施設内の設備の確認をチェック表で適切に行い、大きなトラブルは発生しませんでした。

令和3年度の介護報酬改定においても、災害対応力の強化として、地域と施設との連携がより求められており、今後も地域との絆を大切に、防災拠点としての役割を果たすべく施設であるよう努めてまいります。

3) 専門性の高いケアの提供

今年度は、昨年度以上にけやき荘でお看取りを希望される方が多く、コロナ禍の中、ご家族の希望に沿った対応が大変困難な状況でした。特に本館B棟は、コロナのクラスターが発生している中、看取りの対応を行い、苦悩の連続でした。

B棟でのコロナ対策の振り返りと共に、看護課と連携を図り感染予防に努めてまいります。

認知症実践書リーダーと喀痰吸引の資格は、コロナ禍を配慮しながら3名資格取得する事ができました。

今後も、安定した資格保有者の配置ができる様、感染状況に注意しながら進めていきます。

4) 健康管理等

嘱託医及び協力医療機関、看護職員の連携により利用者の健康状態を把握し、疾病の予防や悪化の防止及び異常の早期発見に努め、健康の保持増進を図ってまいりました。

ご利用者が年齢を重ねるに従い、看取りや急変による入院が増してきています。新型コロナウイルスの感染防止のため、嘱託医と利用者の接触は避けての診察スタイルになりましたが、細やかに観察し報告することで今までと変わらず症状のコントロールができています。

新型コロナウイルス感染症ゼロを目標としていましたが、残念ながら感染者が出てしまいました。しかし、緊急感染委員会を開催し職員一丸となって感染拡大防止に努めることで、最小限に収めることができました。

今回の感染対応で学んだ知識や対策を糧に、今後とも気を抜かず感染予防とご利用者の健康の保持増進に努めてまいります。

5) 食事と栄養

【栄養管理について】

栄養価の全体の設定は、適切だと思われます。ただ、お粥に変更になるとエネルギーの低下、食形態による栄養価の低下の部分の検討が必要です。また、適切な量

の提供がされているかの部分の確認が必要です。

個別対応の対応策が主食を増やすことのための、蛋白質のみの付加、エネルギー及び蛋白質の付加するものの検討が必要です。また、量を増やさず提供する方法が必要です。

【食事の提供について】

飲み込みの悪い方に対し、みじん食のあんかけを学会分類に合わせて変更しました。提供側の課題もあり、少しずつ調整しながら提供していきたいと思います。ラウンド時に入居者の方からのヒヤリングを継続し、献立や調理の検討などをしました。また、前年度と同様、年4回の喫茶おやつを実施しました。

栄養状態の割合の推移

スクリーニング		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均(%)
低リスク	A棟	4	2	6	3	2	1	4	7	1	5	8	2	23
	B棟	3	6	7	7	4	3	2	6	7	5	10	4	
	C棟	2	2	4	2	2	5	2	4	2	1	3	3	
	D棟	3	4	5	2	3	4	5	7	3	1	6	5	
	小計	12	14	22	14	11	13	13	24	13	12	27	14	
	割合(%)	19	21	37	22	15	24	20	25	17	26	34	18	
中リスク	A棟	14	12	8	12	13	8	6	16	13	6	10	14	62
	B棟	8	8	11	15	8	9	14	12	9	10	9	12	
	C棟	8	6	11	6	11	10	9	16	12	5	10	17	
	D棟	9	16	4	9	13	7	11	15	12	12	10	8	
	小計	39	42	34	42	45	34	40	59	46	33	39	51	
	割合(%)	63	65	56	66	60	62	63	63	61	70	49	65	
高リスク	A棟	1	3	1	1	7	2	8	2	6	0	4	6	15
	B棟	4	1	0	2	1	2	1	2	4	0	1	0	
	C棟	2	1	0	2	6		1	3	1	1	3	2	
	D棟	4	4	3	3	5	4	1	4	5	1	6	5	
	小計	11	9	4	8	19	8	11	11	16	2	14	13	
	割合(%)	18	14	7	12	25	14	17	12	21	4	17	17	
合計		62	65	60	64	75	55	64	94	75	47	80	78	

(単位:人)

【療養食加算について】

入院中の方も含まれていますが、積極的に医師に相談し、算定しました。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
20人	22人	23人	24人	24人	22人	22人	22人	24人	28人	30人	37人

【非常食について】

災害時の手順などを再度見直し、非常時に対応できるよう整備及び調整をしています。

6) 機能訓練（特別養護老人ホーム及びデイサービス）

令和3年度は、4月の介護報酬改定に伴い機能訓練においても大きな変化があった1年でした。

特養およびデイサービスにおける機能訓練では【個別機能訓練加算Ⅱ】の算定のために生活機能チェックシートおよび新しい個別機能訓練計画書を作成し、3か月に1回厚生労働省への提出が必要になりました。

また【褥瘡ケアマネジメント加算Ⅰ・Ⅱ】の算定に必要な褥瘡ケア計画の担当項目の評価および記入も行いました。

令和2年度と同様に新型コロナウイルスの感染予防対策のため本館と別館の往来制限やB棟で新型コロナウイルス感染症のご利用者が出たことにより機能訓練中止が相次ぎ、訓練数の減少がみられました。

そのような状況の中、デイサービスの機能訓練に関しては一時期減少していたご利用者数も徐々に回復してきており、新年度を迎え新たに機能訓練をはじめたいという利用者も増えてきています。

令和4年度は、LIFE運用プロジェクトチームに機能訓練指導員も参加することになり、新たな加算算定に向けて他部署と協力し合いながら業務を行っていくとともに、利用者にとっても満足してもらえるような機能訓練を提供していきたいと考えています。

令和3年度 機能訓練業務報告 集計図表

月別	特養	ショート	デイ	合計
4月	489 (483)	2 (0)	71 (73)	562 (556)
5月	411 (465)	4 (1)	70 (53)	485 (519)
6月	474 (495)	0 (5)	51 (80)	525 (580)
7月	463 (484)	0 (0)	43 (58)	506 (542)
8月	459 (491)	5 (0)	53 (73)	517 (564)
9月	411 (443)	3 (7)	62 (72)	476 (522)
10月	428 (502)	1 (0)	76 (74)	505 (576)
11月	406 (485)	0 (0)	73 (60)	479 (545)
12月	436 (531)	4 (1)	72 (81)	512 (613)
1月	395 (457)	4 (6)	52 (63)	451 (526)
2月	291 (480)	2 (1)	46 (48)	339 (529)
3月	352 (486)	2 (1)	68 (65)	422 (552)
合計	5,015 (5,802)	27 (22)	737 (800)	5,779 (6,624)

() 内は前年度

7) 人材育成のための環境整備

今年度も施設全体の必須研修と介護課の研修の2本柱で行いました。

感染症を配慮し、研修内容をグループ研修から、個人で受ける配信をメインで研修内容を組みました。

今年度から、感染症対策実施訓練が全職員対象の研修になりました。複数回開催することで問題なく、全職員参加することができました。研修を通して、職場全体で危機感を持ち、感染症に打ち勝つ意識を高める事ができました。

今後も、コロナ感染に注意しながら、人材育成に励んでいきたいと考えています。

8) 働きやすい、働き続ける職場をめざす

職員が安心して働ける環境を作るため、日本財団主催の週一回のPCR検査を行いました。症状の無い感染者を早期に発見することができたので、施設内のクラスター防止に役立ちました。

研修会場に行けない状況の中 zoom 等（オンライン）を導入して研修を行い、感染予防を考慮しつつ、業務に必要な資格取得の支援を行ないました。

今後も新型コロナウイルス感染対策を継続し、また福利厚生のさらなる充実を図るべく、職員の休憩室の整備や、就業意欲を高めるため備品等の導入を推進してまいります。

9) 事故予防・苦情対応

「事故を繰り返さない、骨折事故ゼロ。」を目指しておりました。原因不明の骨折は減少しましたが、利用者様の ADL 低下による転倒での骨折が見られました。

そこで介護課ではフットコール設置マニュアルの見直し・改善を行い、フットコールの不足が無いようスムーズな移動が行えるようにしました。

今後も歩行が不安定な新規利用者様や ADL 低下に伴う歩行能力の低下が見られる利用者様が增多することが予想されるため職員の観察能力の向上を目指し転倒予防に努めていきます。

第三者委員会を年二回（9 月・3 月）開催し、事故や苦情の適切な解決を図ります。

10) 看取りケアの充実

コロナ禍ではあったがご家族の中でも看取りに関する認知度が高まっており、嘱託医とも「自然死」を中心とした終末期までの安定したサービスの提供を実現するために、24 時間対応で嘱託医・看護課・介護課・機能訓練指導員・サービス課と連絡体制を構築し、ご本人やご家族が最期まで向き合える環境を整え 37 名の方を看取ることが出来ました。

今後も医療と介護が連携しご家族の協力を得ながら継続し実施します。

(2) ショートステイセンター

I 事業報告

上半期の稼働率の低下から、12月よりショートステイ受け入れについて窓口を変更して対応し、稼働率を上げることができました。また、2月に本館3階でクラスターが発生しましたが、入院ベッドを利用して、他フロアでの受け入れを積極的に行うことで、ショートステイご利用者のキャンセルを最小限に対応することができました。クラスター発生時にも『ショートステイからの感染』、『ショートステイへの感染』を発生させることなくご利用していただくことができました。

ご家族の協力が得られないケースや医療処置の必要な方の利用申し込みが増えていきます。緊急時の対応を事前に確認し、施設サービスの説明をしっかり行った上で、柔軟に受け入れていけるようにします。

II 実績

令和3年度 月別利用状況一覧

() 内は前年度実績

	利用者数 (人)	延人数 (人)	1日平均 (人)	稼働率 (%)
4月	36 (20)	440 (403)	14.7 (13.4)	73 (67)
5月	39 (22)	425 (452)	13.7 (14.5)	69 (73)
6月	32 (30)	340 (501)	11.3 (16.7)	57 (83)
7月	36 (32)	378 (467)	12.2 (15.0)	61 (76)
8月	39 (28)	445 (420)	14.4 (13.5)	72 (68)
9月	30 (30)	361 (417)	12.0 (13.9)	60 (69)
10月	28 (33)	361 (431)	11.6 (13.9)	60 (70)
11月	36 (30)	397 (387)	13.2 (12.9)	66 (65)
12月	43 (33)	499 (389)	16.1 (12.5)	80 (63)
1月	42 (34)	524 (389)	16.9 (13.2)	84 (66)
2月	28 (32)	420 (376)	15.0 (13.4)	75 (67)
3月	37 (33)	505 (397)	16.3 (12.8)	81 (64)
合計	426 (357)	5,095 (5,048)	14.0 (13.8)	70 (69)

(3) デイサービスセンター

I 事業報告

長引くコロナ禍、感染対策に留意しながら利用者に寄り添い、皆様の『出来る喜び』や『もっと出来るようになりたい』という気持ちを大切に取り組みました。利用者一人一人の既往歴や症状、趣味嗜好を理解し、その方のニーズに合った個人別レクリエーションを考え、皆様が『(自分が)出来た喜び』を感じることで自己実現を果たして頂けるようにしました。『絵画をしてみたい』、『書道がしたい』などの活動は、どのようにすれば願いが叶うかを考え可能な限り実践して参りました。居宅ケアマネージャーから『絵の具を使用しての絵画は出来ますか』、『合唱は出来ますか』など問い合わせを頂くようにもなり、最近では“想いや願いが叶えられる、個々に寄り添ってくれるデイ”として認知されはじめました。

また、毎月のカレンダー制作や工作では、様々な ADL の方が居られますが、単に職員が手伝うだけではなく、利用者同士が出来ない所を手伝いながら作品を完成させるという取り組みを試みました。この取り組みは、お互いのことを尊重するようになるなど、コミュニケーションへの良い影響にも繋がりました。

稼働率は、居宅支援事業所への営業活動を毎月欠かさず行っておりますが、重点目標に掲げたコロナ以前の平均約 76% に戻すまでに至りませんでした。しかし、問合せも沢山頂くようになりましたので、今後も引き続きコロナ禍、またコロナ禍以後を見据え変わらず営業活動を行って参りたいと思います。

また、職員の配置変更やサービス提供計画書の作成を全ての職員が担当するようにし、利用者個々により目を向けて細やかな気付きが出来るようつとめ、サービス向上に取り組んでまいります。

II 実績等

令和 3 年度 月別利用状況一覧

月別	月末登録数 (人)	延人数 (人)	一日平均利用 人数 (人)	稼働率 (%)
4 月	20 (23)	170 (141)	7.7 (7.0)	43 (36)
5 月	18 (21)	155 (102)	7.8 (6.0)	43 (27)
6 月	19 (19)	163 (148)	7.4 (6.7)	41 (37)
7 月	23 (21)	172 (150)	7.8 (6.5)	43 (36)
8 月	22 (21)	217 (141)	9.9 (6.7)	55 (37)
9 月	22 (21)	222 (162)	10.1 (7.4)	56 (41)
10 月	22 (19)	215 (185)	10.8 (8.4)	60 (47)
11 月	24 (19)	243 (193)	11.1 (9.2)	61 (51)
12 月	26 (19)	266 (207)	12.1 (9.4)	67 (52)
1 月	27 (19)	200 (168)	11.1 (8.4)	62 (47)
2 月	30 (17)	179 (156)	9.4 (7.8)	52 (43)
3 月	31 (18)	267 (167)	11.6 (7.3)	64 (40)
合計	284 (237)	2,469 (1,920)	9.5 (7.6)	54 (41)

() 内は前年度実績

(4) 居宅介護支援センター

I 令和3年度 事業報告

包括支援センターだけでなく、医療機関等との連携を深めて新規利用者の獲得等をめざしていましたが、医療機関での新型コロナウイルス感染症の感染拡大等があり、訪問がままならない状況でした。また、相談を受けるも療養型病床や認知症型グループホームに移動せざるを得ないケースなどもあり、利用者獲得にはいたりませんでした。

II 実績等

令和2年度 月別担当件数（単位は件数、カッコ内は前年度）

月別	担当件数	新規件数	うちデイ・ショート（※）
4月	3 (38)	0 (2)	3 (5)
5月	3 (40)	0 (3)	3 (7)
6月	3 (40)	0 (1)	3 (8)
7月	3 (39)	0 (0)	3 (8)
8月	2 (35)	0 (1)	2 (6)
9月	2 (35)	0 (2)	2 (7)
10月	3 (35)	1 (1)	2 (6)
11月	3 (32)	0 (0)	2 (7)
12月	3 (30)	0 (0)	2 (6)
1月	3 (5)	0 (0)	2 (3)
2月	2 (3)	0 (0)	1 (3)
3月	2 (3)	0 (0)	1 (3)
合計	32 (303)	1 (10)	26 (69)

※上表のデイ・ショートとは、担当する利用者の内、けやき荘のデイ及びショートのいずれか或いは両方利用している利用者の合計。

(5) 会議・委員会 等

▽給食会議

行事食の評価の報告と翌月以降の行事の打ち合わせ、および下記内容について話し合いを行った。

	内容	行事食
4 月	・おやつ提供について	
5 月	・非常時の対策 ・鉄分強化のカフェオレゼリーの提供。 ・お茶類の受け渡しの変更。	
6 月	・検食について ・カトレアの職員食について	
7 月	・食事形態について	七夕喫茶
8 月	・食器の取り扱いについて ・カトレアの冷蔵庫について	夏祭り・家族会
9 月	・デイサービスの食事について ・事故が多い	和菓子喫茶
10 月	・デイサービスのコップについて ・緊急時の対応について	焼き芋フェス
11 月	・事故について ・災害時の対応について ・調理、盛りつけについて	
12 月		餅つき クリスマス クリスマス喫茶
1 月	・みじんのあんかけについて ・神奈川クッキング報告 ・検食簿について	おせち料理
2 月	・食器類について ・検食簿について	
3 月	・検食簿について	ひな祭り喫茶

▽感染対策委員会（毎月開催）（施設内研修 6 月・12 月 感染対応に関する訓練）

8 月から感染予防強化期間として、出勤時の外での手洗いに加えて消毒とマスク交換を行い『施設内にウイルスを持ち込まない・広めない感染対策強化』を実施しました。また、日本財団による PCR 検査を施設職員（委託業者含む）全員を対象に週 1 回行ってきました。（R4、4 月末で終了）

面会方法については、まん延防止等重点措置期間や施設内での感染者の発生状況に応じて判断を行いました。

職員陽性事例が出てきたことから、ご利用者だけでなく職員の体調不良時の行動マニュアルの整備を嘱託医と相談し行いました。また、新型コロナウイルス感染症に関するマニュアルを追加しました。

施設内研修では、実践力を養うために、6 月は新型コロナウイルス感染症発生時の個人防護

具の正しい使用方法について動画を活用した座学と着用・着脱の訓練を行いました。12月にはノロウイルス発生時の吐物の処理方法について、抜き打ちでグループごとに訓練を行っています。2月に施設内で新型コロナウイルス感染症の療養を行っているため、今後も緊急時に行動できることを目標に実施していきます。

▽医療的ケア委員会

日中ケアが必要なご利用者について確認しました。夜間ケアのご利用者はいませんでした。（省令別表第1号・第2号研修修了者は3名新たに追加）

▽虐待防止委員会（R3年より必須）（施設内研修 10月）

昨年度のアンケートでは、スピーチロックに関することが多く、半数以上が「施設内で身体拘束と感ずることがある」という結果でした。スピーチロックを引き起こす要因として共通していたことは、「心に余裕がないとイライラしてきつい口調になる」ということだったため、委員会内でアンガーマネジメント研修を行いました。内容としては『セルフモニタリング』と、グループワークで、お互いに褒めあい、『褒めた人も褒められた人もうれしい気持ちになる』ことを体験し、肯定的なメッセージの大切さを確認しました。また、「虐待の背景・要因」について、施設内研修で理解を深めました。施設内での虐待の事例は確認されていませんが、今後も気を抜かずに実施していきます。

▽身体拘束適正化委員会（年4回開催）（施設内研修 8月）

身体拘束を行うことはありませんでしたが、身体拘束になる危険性のある困難ケースを委員会に報告し、対策を検討・経過確認しました。

事例1) 上半身をかきむしってしまう。

事例2) 手の指を1日中舐めてふやけてしまう。

などの皮膚疾患での医療対応に繋がるケースの報告があがりやすい傾向でした。そのため、医療対応（ストマパック、バルーンパック）のご利用者を抽出し、状況の確認を行いました。

▽排せつケア向上委員会（R3年より 加算算定も視野に入れて開催）

LIFEの加算算定に向けて実施しました。排せつケアに関する機器の利用効果などについて業者からの研修を受けたり、動画で排せつに係る疾病の勉強会を行うなど、日頃のケアの向上を目指しました。スクリーニングに関しては行える体制であるものの、プランの作成に至らなかったため、令和4年度も引き続き勉強会を行っていく予定です。

▽事故防止・安全対策委員会（毎月）（施設内研修 5月・11月）

令和3年度の介護報酬改定により、安全対策体制に関する取り組みを行っていくために開催しました。介護職員・機能訓練指導員の外部研修を受けた担当者を中心となって『フットコールの使用・解除に関するマニュアル』の整備を行いました。また、誤薬事故が続いたため、『配薬時マニュアル』の見直しも行っています。

新型コロナウイルスの影響により、夜間の救急搬送が困難な事例が出たことから、『頭部打撲時の救急搬送の流れ』についての手順を嘱託医のアドバイスのもと変更しています。

▽看取りケア委員会（年４回）（施設内研修 １月）

４月に「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」を取り入れた指針・マニュアルの変更を行い、本人の意思を尊重したケアの充実を目指しました。

施設での看取りケアが行えるかどうか、嘱託医の指示を仰ぎながら委員会で検討しました。

▽ハラスメント対策委員会

施設・事業所としてのハラスメントに対する基本方針について委員会で確認し、職員に周知しました。また、ハラスメントを受けたと感じた場合の「相談シート」を配布し、受付担当者と責任者について明確にしました。

▽褥瘡対策委員会（毎月）（施設内研修 ７月・２月）

令和３年度介護報酬改定の新規加算を取得し、その運用方法やスクリーニング方法の見直しを実施しました。それに伴い、施設内の車椅子・ベッド・エアマット・クッションなどの用具の使用基準を設定しました。

▽認知症専門ケア加算（施設内研修 ９月に２回実施）

認知症に関する研修を動画を活用して実施しました。また、デイサービス運転手、総務課職員など無資格者に認知症介護基礎研修の受講をさせました。（３名）

認知症実践者リーダー研修は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっているため、次年度で確保したいと考えています。

(6) 苦情解決体制

【令和3年度の苦情事例】

〈ケース1〉

発生日：令和3年3月31日

申出者：ご家族

内 容：利用時に個室でも多床室料金でいいと言われたのに個室料金を払っていた。差額分を返金してほしい。

解決に至る経緯

ご家族としては、料金について何度か担当相談員に問い合わせしていたがお互いに内容の詳細を確認しておらず、ちぐはぐな理解となって、不信感に繋がってしまった。

今回の件で請求内容の再確認をした所、令和元年12月の請求が誤りであったことが発覚し、その分の差額(¥8,079_)について返金させていただいた。担当相談員には施設長、事務長より指導した。

以上